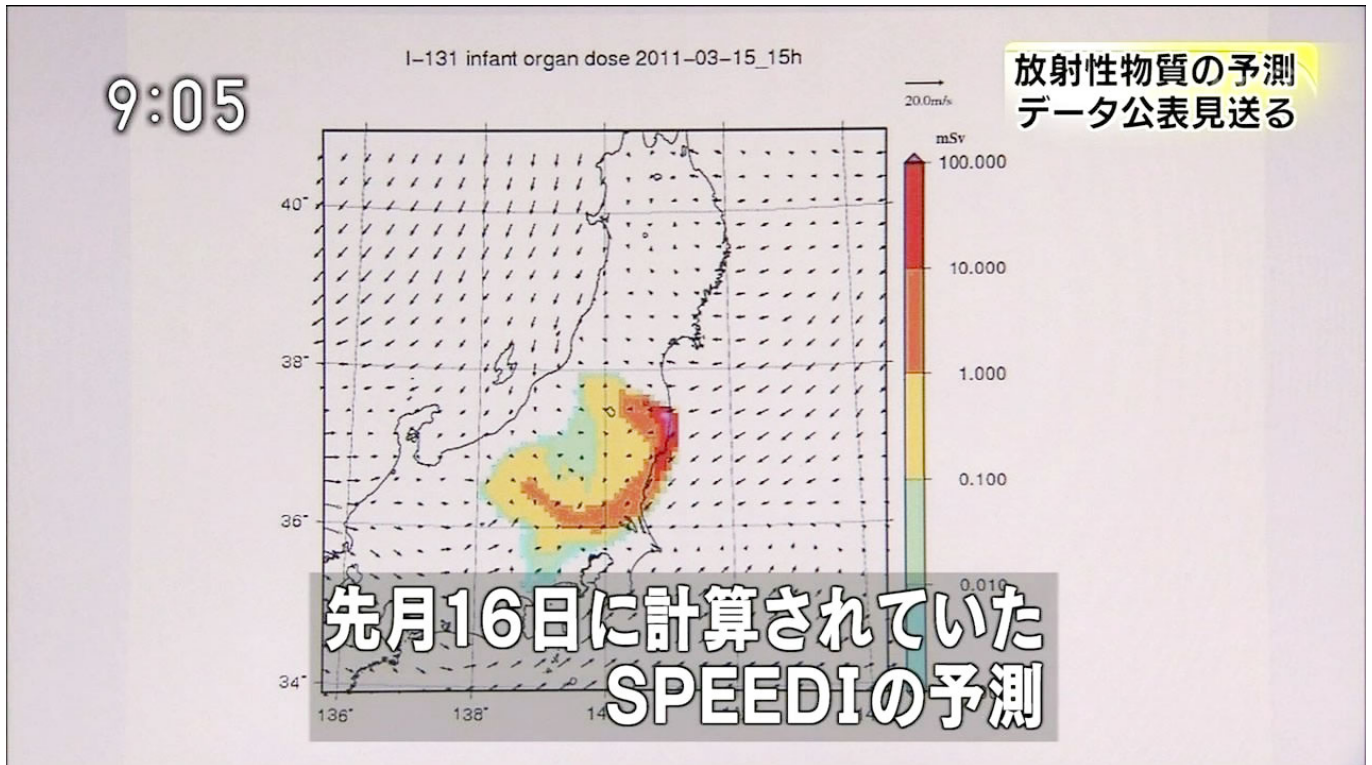


◇ 国 放射性物質の予測公表せず

福島第1原子力発電所の事故で、国は、爆発が起きた翌日の先月16日、原発の北西にある福島県飯舘村などに放射性物質が多く流れると予測したコンピューターシミュレーションの報告を受けましたが、「データが正確でない」として公表を見送っていました。

こうした予測データの公表の在り方を巡ってはさまざまな意見があり、今後検討の対象になりそうです。



画像上部：I-131 infant organ dose 2011_03_15_15h／放射性ヨウ素131による乳幼児臓器線量 2011.03.15 15 時点

この予測は、先月14日から15日にかけて、福島第1原発で爆発などが相次いだことを受け、国の委託を受けた分析機関が翌日の16日に「SPEEDI」というコンピューターシステムを使い、計算されました。

このシステムは、原子炉の温度や圧力などさまざまなデータを基に、原発から放出された放射性物質の量を見積もり、気象データなどから放射性物質の広がりや流れを予測するものです。

分析機関では、震災で原子炉のデータが十分に得られないため、その時点で公表されているデータなどを基に、放射性物質の放出量を仮定し、15日の午前0時から24時間にわたって放出されたと想定しました。

その結果、放射性物質は南西の方向に加えて飯舘村など北西の方向にも帯状に流れ、こうした地域では屋外で24時間過ごした場合に、乳幼児が受ける甲状腺の内部被ばくの量が人体に影響が出る可能性があると考えられる100ミリシーベルトを超える所があるとしていました。

SPEEDIは、原子力事故が起きた際に放射性物質の広がりや流れを予測し、政府が避難や屋内退避の指示などを決める際の判断材料にするために作られたものですが、この予測は公表が見送られました。

これについて国の原子力安全委員会は「その時点では、放射性物質が放出された場所や量などが特定できておらず、データが正確ではないため公表しなかった」としています。

一方、被ばく医療に詳しい長崎大学の長瀧重信名誉教授は「国は、どれぐらいの被ばくが予想され、どれぐらいの危険があるかをもっと公表し、住民と共に避難などの対策を決めるべきだ」と話すなど、今回のような予測データの公表の在り方を巡ってはさまざまな意見があり、今後検討の対象になりそうです。

臓器線量 (organ dose): 等価線量を計算する際などに用いられる臓器・組織による放射線の平均吸収線量のこと。等価線量を指す場合もある。【緊急被ばく医療研修 HP 用語集】